

《Lesson 3》 付加疑問文の主語

一般的に付加疑問文で使われる短縮の疑問形の主語 (“was she?”の she の部分や、“can’t you?”の you 部分) には、I / you / we / they / he / she / it 以外使われません。そのため、前半の文の主語が固有名詞など、これらの代名詞以外の場合は、少し注意が必要です。

《付加疑問文とは》

- (1) 一般的に付加疑問文で使われる短縮の疑問形の主語 (“was she?”の she の部分や、“can’t you?”の you 部分) には、

I / you / he / she / we / they / it といった代名詞しか使わない。

- (2) そのため、前半の文の主語が「**固有名詞**」「**this/that/these/those**」「**his mother (彼の母親)**」のような代名詞以外の単語の場合、短縮の疑問形の主語に気をつける必要がある。

<例> Kenta can teach English, can’t **he**? (Kenta → he)

(ケンタは英語を教えられるのですよね)

That is not a library, is it? (this → it)

(これは図書館ではないのですよね)

His mother can speak French, can’t she?

(彼の母親はフランス語を話せるのでしょ)

ポイント！ “I think that ~.” / “I don’t know that ~.” の文の際の注意事項

“I think that ~.” / “I don’t know that ~.” の文の際は、どこの部分の主語が短縮の疑問形になるのか注意する必要があります。

<例> Your mother thinks you are smart, doesn’t she? (aren’t you? = ×)

You didn’t know I was good at math, did you? (wasn’t I = ×)